

# 特別支援だより No.19

令和3年9月13日（月）

特別支援教育コーディネーター 松田敦子

## 5 「どうせ」という言葉が聞こえたら赤信号



“自分をだめにする3D” というのがあります。それは、「でも」「だって」そして「どうせ」といった三つの頭文字のDをさします。この言葉が様々なところで聞こえるようになったら、子どもの行動や内面に注意を払う必要があります。

例えば、教室で友だちと喧嘩して、その理由をたずねたとき「でも、ほくだけじゃないもん」「だって、○○ちゃんがやれっていったんだもん」と自分の正当性ばかりを主張し、相手の責任を厳しく主張するときなどの「でも」「だって」です。

これらの責任転嫁や他人転嫁は、いつも対象が相手に向けられていて、自己の行動を省みようとしなかったり、自分の責任から逃れようとしたりするときに出る言い訳の言葉です。

このままにすると、自分自身に対する素直さや責任感が育てられないばかりか、最後には「どうせ、わたしは悪い子ですよー!」という自己否定の考えにつながり、心を固く閉ざしてしまいます。こうなったら、どんな忠告や指導にも耳を傾けません。他から学ぶということができなくなりますから、人として成長することが難しくなります。

さて、「どうせ」に伴ってあらわれる言葉には、すべて人生に対する否定的な意味合いが込められています。あるいは絶望的な自己否定になってしまいます。行きつくところ、孤独感・無常感の袋小路に入り込んでいく言葉なのです。\*1)

この解決策は、「認める」という行為を繰り返すことです。どんなことでも、その子なりの得意なことやよいところをほめてあげることです。この繰り返しから自己存在感が芽生え、少しずつ心が開かれていくのです。

他人に責任を転嫁する言葉

# Q11

## 図工の授業でよく起きることですが…

自閉症の子どもは、自由に、あるいは決められた形を作る工作活動や、課題に応じた絵を描く活動が苦手なことがあります。

### 自閉症の特性から考えてみましょう

- 特定の色へのこだわりがあったり、特定の素材の触感が苦手だったりするために、指示された課題ができないことがあります。
- 状況に関係なく自分の興味に没頭する傾向が見られ、特定の材料を使って同じ物を作ることに固執したり、同じ絵を繰り返し描く子どももいます。(一般的にはあまり意味がないと思えるものや、未完成に見えるようなものを描き続けることもあります。)
- 職員室に置いてあるプリントや他の児童の持ち物で、自分の好きなものを作ってしまうことがあるかもしれません。
- 認知面での発達の違いがあって、形の把握や空間配置ができないために、絵が描けなかったり、描けたとしても年齢不相応だったりすることもあります。
- 極端な不器用のために、図工で必要とされる技能や道具の操作が苦手なこともあります。

### 支援のヒント1●自閉症児への指導例

小学校2年生の知的障害を伴う自閉症の男児。工作の時間、はさみが使えず、のり付けもうまくできません。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 運動機能や身体感覚の違いがあって、まだはさみやのりを使える発達段階にいないために、学年相応の課題をこなせないことがある。できない作業は、教師や介助者が行うようにする。
- ② 課題のレベルを下げる。または、本人に可能な範囲の簡単な作業を行うようにする。机間支援をしながら、少しでも進歩や頑張っている様子がみられたらほめるように心がける。
- ③ 教師や介助者の代わりに、近くの子どもに作業を補助するように依頼する。
- ④ 一人で作業ができない時、困った時に手助けを求める方法を前もって取り決めておく。
- ⑤ 作業そのものできないわけではないが、手順が分からなかったり、指示に従わず、目についたところ・やりたいところから始めてしまって作品を完成させることができない子どもの場合は、仕上げるまでの順番を紙に書いたり、工程を分けて一つずつ進めるといった配慮をする。

### 支援のヒント2●高機能自閉症・アスペルガー症候群の児童への指導例

小学校6年生の高機能自閉症の男児。特定のマークに興味をもって、図工の時間にはそればかり描いています。そのような時に、授業の内容に関係するものを描くよう何度も指示すると、癇癪を起こしたり離席してしまいます。興味のある課題ならば、参加します。また、下絵は上手に描けても、彩色の際に絵の具が乾かないうちに次の色を塗ってしまうため、色が混ざり合ってせっかくの下絵が台無しになってしまい、本人もとても悔しがります。このような場合、支援の方法として以下のようなことが考えられます。

- ⑥ 1枚描いたら課題を行うなどの約束をする。もしくは、特にこだわりのあるマークを、「デザイン」の一部として描くことを認める。
- ⑦ 「待つ」ことができない場合は、乾かす必要のない画材(クレヨン・パステック・色鉛筆など)を使って彩色するように、作業課題を変える(自由選択も可)。
- ⑧ ひとつの色を塗り終わったら、乾くまで他の課題を命じたり休憩をはさむといった配慮をする。
- ⑨ 効率的な色塗りの順序や、色が混ざりにくくする塗り方(例えば、離れた箇所を塗るといったことなど)が分からないような場合には、教師が色塗りの順番を指示する。
- ⑩ 下書きの線をはみ出して上手に完成させることができない場合には、下に描いた線をはみ出さずに色を塗る練習を、あらかじめ行う。